早稲田大学　文学部　国語

総論

満点	75点	目標得点	55点	試験時間	90分	偏差値	71
大問数	4	小問数	27				
【解答形式】		選択式	24／27問	記述式	3／27問	論述式	0／27問
【難易度】	C 1／27問		B 11／27問		A 15／27問		

※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す

Topics

1…漢文の著しい易化
2…古文も易化傾向続く
3…現代文力が合否の分かれ目

こんな力が求められる！

古漢の負荷はセンター試験並み。センター試験で最低85％以上の得点力があれば対応可。

大問別分析

【一】

予想配点	20／75点	**時間配分の目安**	25／90分
文章の種類／ジャンル	現代文・古文・漢文・古漢融合／評論・随筆・小説・物語・詩歌・その他		
【出典】	「擬似科学入門」（池内了）		
【文字数】	約二八〇〇字		
出題形式	選択式		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 問一　A　問二　A（Ⅰ　A　Ⅱ　A　Ⅲ　A）　問三　A（a　A　b　A　c　A） 問四　B　問五　A　問六　A　問七　B　問八　A		
お茶ゼミカリキュラムとの関連	高三OS・高三早大OSの前期で学ぶ「科学論」に対応している。		

●解答のポイント&学習対策等

問一　早稲田入試の定番「脱落文挿入問題」。本文からではなく脱落文から類推するのがコツ。早とちりしてホにしないこと。

問二　早稲田文学部の定番問題。この問題に対応できるかで文学部との相性がわかるといってもいい。他学部に較べて論理力だけではない一層の「日本語力」「注意力」が問われる。

問三　問二同様文学部らしく「日本語力」が求められている。この手の「空欄補充問題」は順番通りに拘らないこと。今回は空欄aで迷いがあったなら次の空欄bの方が確定しやすく自ずとaが絞られたのではないか。

問四　機械的な整理で解ける問題が多いのが早稲田現代文の魅力ではあるが、この問に関しては内容もきっ

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.

ちり理解しておかないと間違える。中でもロ「認知的保守性の原理」とハ「主観的確証の原理」との違いを読み込めたかどうか。

問五　問四との関連問題であり、より平易。気をつける点はむしろ「設問文」もちゃんと読解したかどうか。

問六　やはり問四からの関連問題であり、選択肢が粗いので容易。問五同様、「設問文」にも気をつけよう。「適合しないもの」を選ぶのである。

問七　レベルをBにはしたが大問【一】の中で最も早稲田らしい良問であり、早稲田に合格する現代文力を持つ受験生なら速攻で気持ちよく反応しなければならない。この問を間違えた人は「現代文」自体を学んでいないといっていい。

問八　あらかじめ「解答」を予想しておくことが必須。選択肢ハが早稲田らしい引っ掛け。「再確認」はより誤った認識を固定するだけである。

【二】

予想配点	20／75点
時間配分の目安	30／90分
文章の種類／ジャンル	現代文・古文・漢文・古漢融合／評論・随筆・小説・物語・詩歌・その他
【出典】	「白」（原研哉）
【文字数】	約二六〇〇字
出題形式	選択式・記述式
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 問九　B（Ⅰ　A　Ⅱ　B　Ⅲ　A）　問十　B　問十一　A 問十二　C　問十三　A　問十四　A（A・A）　問十五　A
お茶ゼミカリキュラムとの関連	抽象度の高い本格的な評論文。高三OS・高三早大OS・高三東大OSの後期、及び冬期講習「早大現代文」直前特訓「早稲田の国語」に対応。

●解答のポイント＆学習対策等

問九　大問【一】の問二と同様の形式である文学部特有の問題である。【一】に較べて「論理力」の度合いが強いのでむしろ解きやすかったかもしれない。

問十　前段落から解答を確保して容易に正解に反応できる問題だともいえるが、『伝統色』としての「白」と『色の不在』としての「白」の対比を押さえていれば消去法でも解答できる。後者で解答を確定できた受験生は後の問にも反応が早かったはず。

問十一　早稲田らしいあるいは典型的な現代文の基本問題である。波線部の中身を見なくても容易に捌ける。

問十二　難しい。際だった「論理力」と「日本語力」の要素を必要とされる早稲田の文学部真骨頂ともいえる問題ではあるが。ちなみにこの問は「脱落文挿入問題」に分類される。詳しい説明は割愛するが、まず四番目の「ハ」が確定され、二番目の「ロ」も決まる。問題は三番目、もしくは一番目のどちらに「イ」「ニ」が入るべきかだ。解答は「イ」なのだが、「ニ」にした受験生は「論理力」は誇っていい。「ロ」にある「混ぜ合あわされ」と「イ」の「パレット」が引き合うことに気づく「日本語力」があるかどうかが決め手になる。偶然に正解はないのではないか。限られた時間で確定することは至難だったろう。

問十三　これは安易な空欄問題。もちろん定義にかかわるキーワードを問うているので本格的な良問ともいえるが、本文全体の構造が捉えられなくても、「生命は情報と同義」という表現に気づくだけで「情報すなわち［乙］」は答えられてしまう。

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.

問十四　いかにも早稲田らしい「内容（不）一致問題」。どこが早稲田らしいかというと、現代文の基本の基本である対比が掴めれば明快に答えが決まるところがだ。今回は『伝統色』としての「白」と『色の不在』としての「白」、さらには『白』とそれ以外の『色』との対比（この文章は『白』の特異性を浮き彫りにする内容である）を押さえておけば、他の選択肢がいかに悩ましかろうが意味不明だろうが露骨にロとハが間違っている。したがってレベルをAにしたが、ただ現代文の訓練がてきめんに顕れるという意味では良問であるし、合否を分かつレベルBといってもいいだろう。

問十五　漢字の「書き取り問題」。「漢璧」をこなしてきたお茶ゼミ生なら全問正解できる。

【三】

予想配点	20／75点	**時間配分の目安**	20／90分
文章の種類／ジャンル	現代文・古文・漢文・古漢融合　／　評論・随筆・小説・物語・詩歌・その他		
【出典】	「栄花物語」		
【文字数】	約一二〇〇字		
【『あんころ』レベル】	★マーク付きの語彙レベルで対応可。		
出題形式	選択式		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す		
	問十六　B　問十七　B　問十八　A　問十九　B		
	問二十　B　問二十一　B　問二十二　A　問二十三　A		
お茶ゼミカリキュラムとの関連	高三ＳＴの後期テキストに収録している古文と前半部一致。		

●解答のポイント＆学習対策等

問十六　この問だけではなく大問【三】全般にいえるのだが、マニュアル通りの直訳ではなく意訳に対応する力、省略されている主語・目的語を類推する力を求めている点で「センター試験」と同種の意趣を感じる。先に古文は易化したと書いたが、それは一定の「読解力」があることを前提としている。今年は特に「読解力」そのものを徹底的に要求している。この問で言えばマニュアルで即消えるのはニのみ。中でも「イ」（二郎君が）なのか「ロ」（皮の聖が）なのかが「文脈」から確定できたかどうか。ここで間違えると芋づる式に他の問にもダメージを与える。難なくほぼ解答した受験生と壊滅した受験生とに実力差（読解力）がくっきり分かれたことだろう。

問十七　問十六とセット問題だといいたい。両方正解かあるいは両方×か。「かばかりの身」とは誰を指すか。文脈を押さえる力が必要となる。

問十八　敬語の基本的なサービス問題。高二冬期講習、もしくは高三春期講習で余裕で対応できる。なお早稲田は近年文法問題の中でも「敬語法」に関わるものを出す傾向が強い。その点でも「センター試験」を彷彿とさせる。

問十九　副詞を入れる空欄補充問題。マーチ系なら全く読解力を問わない「呼応副詞」を答えさせるところが、早稲田になるとそれが通用しない。類似の設問は同じ早稲田大学の政経学部の定番だったが今年は文学部にも出題されたわけだ。解答に関わる副詞はいずれも基本単語とはいえ、たとえば空欄Ｂで「ホ」を使ってしまうとはまってしまう。先の現代文で言ったようにこの手の空欄補充問題は順番通りに拘ると混乱しやすい。

問二十　やはり百パーセント文脈に依存する問題。傍線部自体がきちんと直訳できようと全く選択肢を絞ることはできない。

問二十一　問十七・二十・二十一は同種の力を要求する問題だ。マニュアル通り直訳で反応すると「ロ」「ニ」

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.

に引っ掛かってしまう。ただここで強く断っておきたいことは「マニュアル通り直訳」することを否定しているわけではないということだ。まず「マニュアル通り直訳」する力を持っていることが大前提になっていることは早稲田でも変わりない。「イ」（道長が）か「ロ」（二郎君が）の判断は理詰めでは困難。むしろ「常識力」か。ただ早稲田に合格する受験生なら対応する強度は持ち合わせているにちがいない。また「ハ」は「出家せずにいる」が論外として捌くことも可能だ。よってレベルCにまではしなかった。

問二十二　消去法からでも解答は決まる。選択肢がさほどきわどくない。またこの古文はお茶ゼミではスタンダードクラスで扱うレベルであり、高三夏期講習の「古文読解標準」で五日間鍛えられていれば容易であったはずだ。

問二十三　高三後期で扱う「文学史」の授業で十分対応できるレベル。基本問題である。

【四】

予想配点	15／75点	**時間配分の目安**	15／90分
文章の種類／ジャンル	現代文・古文・漢文・古漢融合／評論・随筆・小説・物語・詩歌・その他		
【出典】	「晋書」		
【文字数】	二〇六字		
出題形式	選択式・記述式		
小問別難易度	問二十四　A　問二十五　B　問二十六　B　問二十七　A		
お茶ゼミカリキュラムとの関連	「漢文基礎」「センター漢文」等でも対応可。		

●解答のポイント&学習対策等

問二十四　総論で漢文が著しく易化したと書いたが、この問がそれを象徴している。「返り点」を付ける問題であるが、「白文」ではなく、なんと「書き下し文」のヒント付きである。もはやマーチ系との差はない。ポイントは基本句型の一つ「使役型」だけだ。最近は文系でも漢文を警戒する受験生が増えているが物凄くもったいない。文系たる者、漢文も最低限でもいいから学習すべきだ。センター試験利用の幅も広がる。

問二十五　この問と次の問二十六が関連問題になっていて、いずれも部分的な解釈だけでは解答が確定できない「文脈」依存の設定になっている。そういった意味では早稲田らしいともいえるが決して難しくはなく、センター試験レベルの読解力があれば掴めたはず。文脈が掴めなかった場合「イ」などに騙されたはず。ちなみに空欄Aの直後の「欲ス」はwillと同じ役割を持つ。よって「死にたい」ではなく「死のうとする」の意である。

問二十六　というわけで問二十五を「イ」などにした受験生は「情」をミス・リーディングして「ロ」「ハ」に引っ掛かったことだろう。

問二十七　基本句型の一つ「限定型」と再読文字の「未」が傍線部内に含まれているが、選択肢は絞れない。つまり「文脈」に依存するわけで、続く二行を読む必要があるのだが、やはり平易と言いたい。「返り点」も「送りがな」も補われている。今年の漢文は全問正解が必須で、やはり現代文が合否の鍵を握っていたといっていい。

2009 Ochanomizu Seminar All rights reserved.